

新学校点描

2学期制の本校は、10月1日（金）で前期が終了です。後期は、5日（火）からスタートします。《K中学校》

NO.10 R3. 10. 1

担当：校長

9月16日～18日にかけて地区新人大会が開催されました。16日は台風による大雨でいくつかの競技が順延になりました。結果は、バレー部、野球部、ソフトテニス部、卓球部が団体で第3位に輝きました。バレー部は北ブロック大会代表決定戦も勝利し、見事県大会の出場権を獲得しました。部員でたった一人の1年生もサーブをしっかりと入れて貢献してくれたことを顧問のT先生が嬉しそうに教えてくれました。個人戦は、卓球のN・Tさんが第2位に、ソフトテニス個人でS・M&・S・Aペアが第3位に輝きました。来年の総体にとってもいい課題をどの部も見つけたようです。

地区読書感想文コンクールで1年生のY・Kさんが「一緒に戦った七日間」という題で佳作、O・Kさんが「私の存在する意味」という題で優秀賞に輝きました。O・Kさんの作文は県読書感想文コンクールの選考に進みます。題名は「私の存在する意味」です。With Youという本を読んで、存在する意味はきっと、これから先出会えてよかった、そんな風に思える人を見つけていくことなんだと綴っています。1冊の本との出会いから、本当に深く考えているこの文章にとっても驚きました。

歌のいのち

先日、「今日の3Aの合唱はすばらしかったー」と、O・K先生が職員室に戻るなり、話していました。学校では、合唱祭に向けて動き出しました。

28日（水）の3時間目は合同音楽で、全校における合唱の練習を行いました。「思いっきり歌を歌える学校」というスローガンを掲げている学校もあります。合唱とは、それだけ、他者が自分を認めてくれる世界の中でしか、自分らしい歌を表現できないわけです。

本校では『ふるさとの虹』という歌も練習しています。実は、あの歌は平成9年の金山中学校創立50周年の時に合わせて作った歌でした。当時は、マスコミも式典に駆けつけて、生徒たちの合唱の姿を記事にしてくれました。

あの時作った歌が、令和になっても歌い続けられていることに、作者としてはしみじみとしてしまいます。



平成9年11月7日山形新聞朝刊より

実は、わたしは、『ふるさとの虹』ともう1曲、合唱のための歌を作りました。いずれも、ここK中学校でつくりました。もう作ることはありません。

当時3年の担任をしていたわたしは、ほぼ毎日のようにクラスの合唱委員の涙ながらの訴えに耳を貸していました。「隣のクラスは、みんな一生懸命なのに、うちのクラスだけ歌わない人が多いんです。」「朝練習しようって呼びかけても、ほとんど来てくれません。」「

合唱委員である、女子生徒が、わたしに泣きながら状況を説明をしに来る日々でした。音楽の先生も諦め顔です。

それでも、合唱委員のその女子生徒は、放課後ひとり残って、大判用紙に大きく課題曲の歌詞を書いたりしているのです。男子なんか、それを見ても知らんぷりで帰ります。この子は、中学時代の最後に、みんなで大きな声で気持ちよく歌いたいと願っていたのです。

さすがに、わたし、考えましたよ。
そして、思いついたんです。どうせ歌う気がないなら、この生徒たちだけの歌を作ってあげよう。
それが次の歌です。

Tomorrow Dream

流れゆく雲を見つめて

作詞 高橋 晋也

作曲 畠山 玲子

小さな 暮らしの中で

僕は 何に 迷い悩むのか

大きな 夢にも逢えず

自分らしさを ところで

つぶやくだけ

時に 人を 傷つけて

時に 人から 傷つけられて

それでも 間違いなく

明日は やって来る

流れゆく 雲を見つめて

ふと 駆けていった

昨日たちを 思い出した

そう 僕らは 3Aで

生きている

雲よ そこに

悩みの 答えをください

明日を 生きる

理由を ください

完成した日、この曲を教室でクラスの生徒たちの前で、一人で歌いました。
生徒も啞然。

「この曲はね、あなた方だけの歌です。だから、この“歌のいのち”も、合唱コンクールで終わり。後は、どんな歌にするかどうかは、あなた方しだいです。」とか何とか言ったように思います。あの女子生徒だけは、真剣に聞いてくれていたことは覚えています。

再び、練習が始まりました。相変わらず、音量は低いですが、これまでよりは、みんな歌ってやろうという意識は起きましたね。作ったわたしへの同情からかもしれませんが、でも、ようやく歌えるようになりました。

毎日毎日、歌っていきました。なんか、どんどん生徒たちの「自分たちの曲だ！」っていう雰囲気が強くなっていったんです。保護者も、「先生が作ってくれたんだからしっかり歌え」と、バックアップしてくれました。

そして、当日を迎えたんです。

ピアノのイントロとともに、この日だけの歌のいのちが始まります。歌詩の中に、このクラスでの出来事を入れ込んでいます。なんだか聞いている聴衆も、このクラスのこれまでの様子をイメージしてくれていたように思います。

歌は感動的でした。合唱に悩んでいた学級とは思えないくらいの歌声でした。

途中までは・・・。

実は、途中からほとんど全員泣き出しちゃったんです。歌いながら・・・。歌は後半まで持ちませんでした。

ピアノの演奏とともに、合唱が終わりました。そのとき、満場の聴衆の大変な拍手に包まれました。上手に歌うことではなく、心を歌に込めて歌ったことに、多くの方が感動してくれたようです。合唱コンクールの結果は、1点差で、隣のクラスに負けました。

合唱が終わったとき、あの女子生徒が、わたしに「ありがとう」って言ってくれたんです。「こっちこそありがとう」って返しました。

今の中学生の歌声を聞くたびに、誰も歌うことのないあの歌を時々思い出すのです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp